



空き家利活用コンテスト2022 優秀賞



非住宅部門

事例 03

ART CUBE クチュールシカノ

文化芸術の町・鹿野に新たに生まれた
創作&滞在が可能な“アートの拠点”



もともとは洋装店の店舗・工房兼住宅だった空き物件。いんしゅう鹿野まちづくり協議会が所有していたが、イベントでの利用回数が減り休眠状態に。利活用の方策を求め、鳥取大学建築サークル「CITA」を交えて協議を重ねると、“アートの拠点”にしようというアイデアが。毎年「鹿野芸術祭」「鳥の演劇祭」等が開催される鹿野は、文化芸術に対する意識が高い。しかし一方で、芸術家が滞在し創作活動に熱中できる場所は少なく、そんな施設に再生しようと立ち上がった。

リノベーションは学生主体で進行、地域住民や関係者にヒアリングを行い、ニーズを間取りや動線に反映した。奥に長い建物を4つに分け、1階は人々が出会う交流スペース、ギャラリーやイベントを催すオープンスペース、2階は「アーティスト・イン・レジデンス」（芸術家を一定期間招へいし、作品制作や発表を行う事業）等で町を訪れた芸術家のアトリエ&居住スペースに。2022年2月のオープン以来、芸術家の滞在はもちろん、ギャラリーやワークショップの開催、地域の音楽サークルの練習場所など様々な活用されており、鹿野の文化交流に新風を吹き込んでいるようだ。

1階のオープンスペース。作品が引き立つよう壁の色は白を基調とした。奥側は吹き抜けになっており、高さのある大規模な芸術作品も展示できる。作品を照らす照明とライティングレールを設置。イベント時は舞台照明にすることも。





1階のオープンな雰囲気とは対照的に、2階の居住スペースはプライベートな空間に。コスト削減のため既存の状態を生かしつつ、海外客を意識して畳の間をフローリングに改修した。



滞在アーティストが作品を制作するための2階アトリエスペース。約20畳の広さがあり、創作活動にピッタリ。吹き抜けから1階のオープンスペースを眺められるようになっているのが面白い。インスピレーションが湧きそうだ。





カフェを兼ねた1階の交流スペース。ショーウィンドウのカーテンは、店舗に残されていた生地を使って地域住民が縫い上げてくれたもの。腰壁のペリーピンク色も手伝って、洋装店当時の華やかさがよみがえるよう。



[DATA]

- 【所在地】鳥取市鹿野町鹿野1321 【構造】木造2階建て 【築年月】昭和40年代
- 【改修後の用途】アーティスト・イン・レジデンスとして利用可能な施設
- 【間取り構成】交流スペース(カフェ)、オープンスペース、滞在スペース(個室1室、ダイニングキッチン、トイレ・シャワー室等)、アトリエスペース
- 【改修期間】2020年6月～2022年2月
- 【改修費用】約550万円
- 【設計者／施工者】学生団体 CITA・有限会社 気高木工製作所